Twitterページを開設しました！　未来のバックナンバーも見れます。https://twitter.com/UnionKyusyu　ユニオン長崎で検索！

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。　期間雇用社員の希望者全員の正社員化を。　めざせ、均等待遇、なくそう差別！　ユニオンは労契法裁判に勝利するぞ！

「23春闘アンケート」集約 頂いた意見を交渉へ生かす

未来

郵政産業ユニオン PIWU
全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・　「みらい」
NO. 4320
`23年1月27日（金）
TEL・Fax 095-828-1953
文責　支部　書記長

おはようございます。

郵政ユニオンが取り組む「春闘アンケート」に今期も組合員だけでなく、他労組、未組織の社員からも多くのご協力を頂き、日本郵政グループで働く社員の生活実態を集約することが出来ました。ありがとうございました。

集約結果からは、賃金が上がらない中ですさまじいまでの物価上昇にさらされ、厳しい職場環境で将来に不安を感じながら働く社員像が明らかになりました。

この集約結果を基に２３春闘では、大幅な賃上げや均等待遇・処遇改善などを昨年以上に強く求めていきます。

＊集約結果は郵政ユニオン機関紙に掲載されています。一部を抜粋して紹介します。

（なお地下郵政ユニオン掲示板に新聞を掲載しています）

分析結果『非正規社員編』

進まない正社員登用

勤続十年以上の割合は２０１５年に２９．４％だったものが今回は５６．３％に増加しました。アソシエイト社員の割合も７７．６％に増えています。また会社の収入が主な生活費になっているとした人の割合も昨年より３％増加して８４．１％になりました。

このことからは会社の収入が主な生活費になっている人の割合が多く、非正規社員がアソシエイト社員になって雇用の安定を図りながら、生活をなんとか維持していることが読み取れます。

収入が増えず 生活苦が増す

生活実感は「かなり苦しい」「やや苦しい」を合わせると６６．９％となり昨年の６４．７％よりも増加しています。

年間収入が「減った」と答えた比率は昨年の２０．９％から２１，４％に増加し、変わらないと合わせると８２．１％になります。格差社会の中で一番しわ寄せがいく、低賃金労働者の生活が一掃厳しさを増しています。

８年連続で要員不足

職場への不満、不安では「要員不足」が８年連続トップで、次に「賃金が安い」と、昨年と同じ傾向です。以下、「人間関係」「正社員との格差」「仕事がなくなる」「スキル評価制度」となっていて、正社員との格差や人間関係に悩みつつも低賃金で働かされている非正規社員の労働実態が明らかになりました。

『正社員編』

苦しさ増す生活実態

「かなり苦しい」「やや苦しい」が６３，０％と昨年の６２，１％から上昇しています。７年連続のベアゼロに加え、物価上昇によって社員の生活が昨年よりさらに圧迫されていることが窺えます。

特に、３０代では６６，９％、５０代では６５，２％と平均を大きく上回っています。子育て世代や子供の学費への負担が数字に表れています。

改善されない 職場環境

職場生活でストレスや健康不安を「強く感じる」「やや感じる」は合わせると平均で８２，６％、４０代で８３，１％、５０代では８５，９％を占めています。コロナ禍もあり多くの社員がストレスや健康面での不安を抱えながら仕事をしていることになります。

労働相談でも、パワハラやいじめなどのハラスメントに関わる相談が、多数を占める結果と重なっています。

要員不足が 今年もトップ

「今の職場に不満・不安を感じること」では全体としては「要員不足」が２４，１％でトップ、次いで「賃金が安い」１８，２％、「職場の将来」１４，５％となります。３０代は第３位に「新人事・給与制度」１４，７％をあげていることは、賃金制度のさらなる改善が必要であることを示していると言えます。職場生活でのストレスや健康不安を「強く感じる」「やや感じる」人は合わせて８３，４％で昨年は８２，４％、一昨年が８５％を占めるなど依然として８割を超える人がストレスと健康面での不安を抱えて仕事をしていることになります。郵政ユニオンへの労働相談でも、上司からのパワハラ、いじめなど相談内容の９割がハラスメントに関する事となっています。

今年の春闘アンケートでも、土曜休配の問題やＤｃａｔ、ドライブレコーダーが監視目的になっている等、切実な職場実態や問題など多くの貴重な意見が寄せられました。

郵政ユニオンは、問題解決の為に、今春闘を闘います。

期間雇用パート労働者の皆さん!　困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。
１集-海江田，２集-向井，３集-山田，　支部・分会の役員へ。

郵政ユニオン長崎の
ホームページはこちら☞